**佐藤 俊介（ヴァイオリン）**

**Shunske Sato**

モダン、バロック双方の楽器を弾きこなすヴァイオリニストとして、活発にコンサート活動を行っている。

バロック・ヴァイオリン奏者としては、コンチェルト・ケルンおよびオランダ・バッハ協会のコンサートマスターを務める。

モダンの分野では、日本の主要オーケストラはもちろん、ベルリン・ドイツ・オペラ管、バイエルン放送響、フィラデルフィア管、ボルティモア響、ナショナル響、シアトル響などと共演。

2010年、第17回ヨハン・セバスティアン・バッハ国際コンクールで第2位および聴衆賞受賞。出光音楽賞、S&Rワシントン賞受賞。2019年度 第61回毎日芸術賞、第70回芸術選奨 文部科学大臣新人賞を受賞。

2013年よりアムステルダム音楽院古楽科教授を務める。

2018年6月1日より、オランダ・バッハ協会第6代音楽監督に就任。2019年9月から10月に行われた、オランダ・バッハ協会管弦楽団の日本ツアーを成功させた。

録音も第62回文化庁芸術祭で大賞を受賞した「グリーグ：ヴァイオリン・ソナタ集」や、最新盤「テレマン：無伴奏ヴァイオリンのための12の幻想曲」など。「パガニーニ: 24のカプリースop.1」では、世界で初めてガット弦とバロック・ボウを使った歴史的奏法で録音。最新盤の「J.S.バッハ：無伴奏ソナタ＆パルティータ（全曲）」（Acoustic Revive）が、2019年度第57回レコード・アカデミー賞大賞銀賞（器楽曲部門）を受賞。

（以上、560字）